

江田島市の現況とまちづくりの方向性、 公共交通の問題点等について

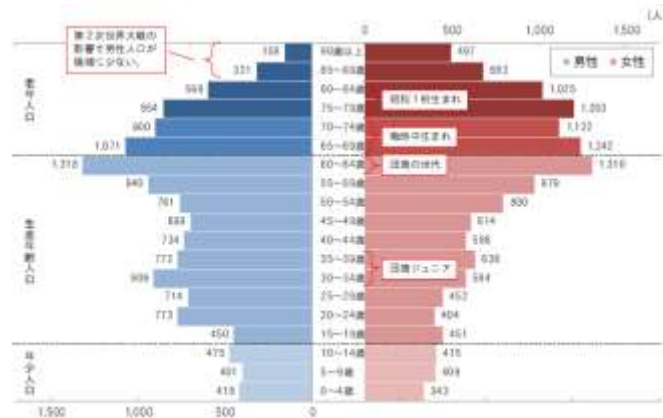
人口構成とその推移

2



- 高齢化率は上昇傾向が続いている
- 生産年齢人口や年少人口の割合が少ない

▲平成22年国勢調査に基づく年齢階層別人口と高齢化率の推移

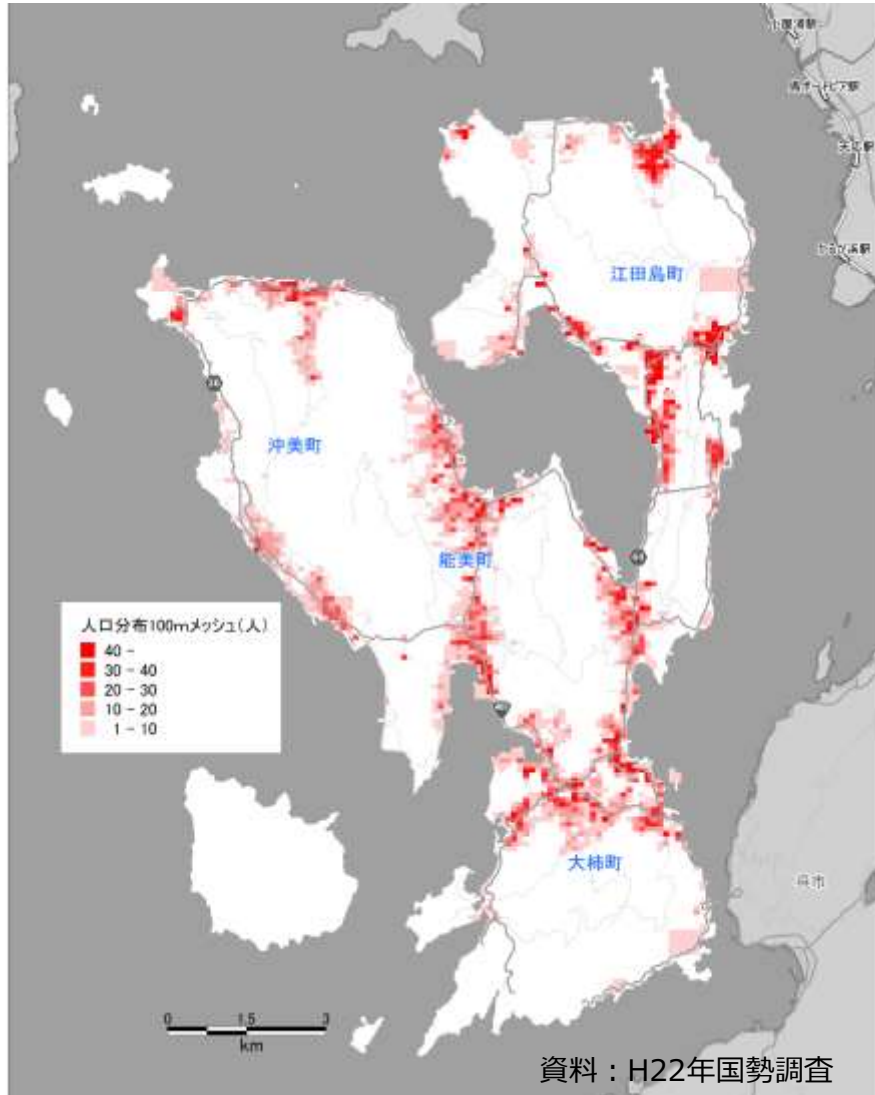


▲平成22年国勢調査に基づく江田島市の人口ピラミッド

※江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）の資料より抜粋

人口の空間分布

3



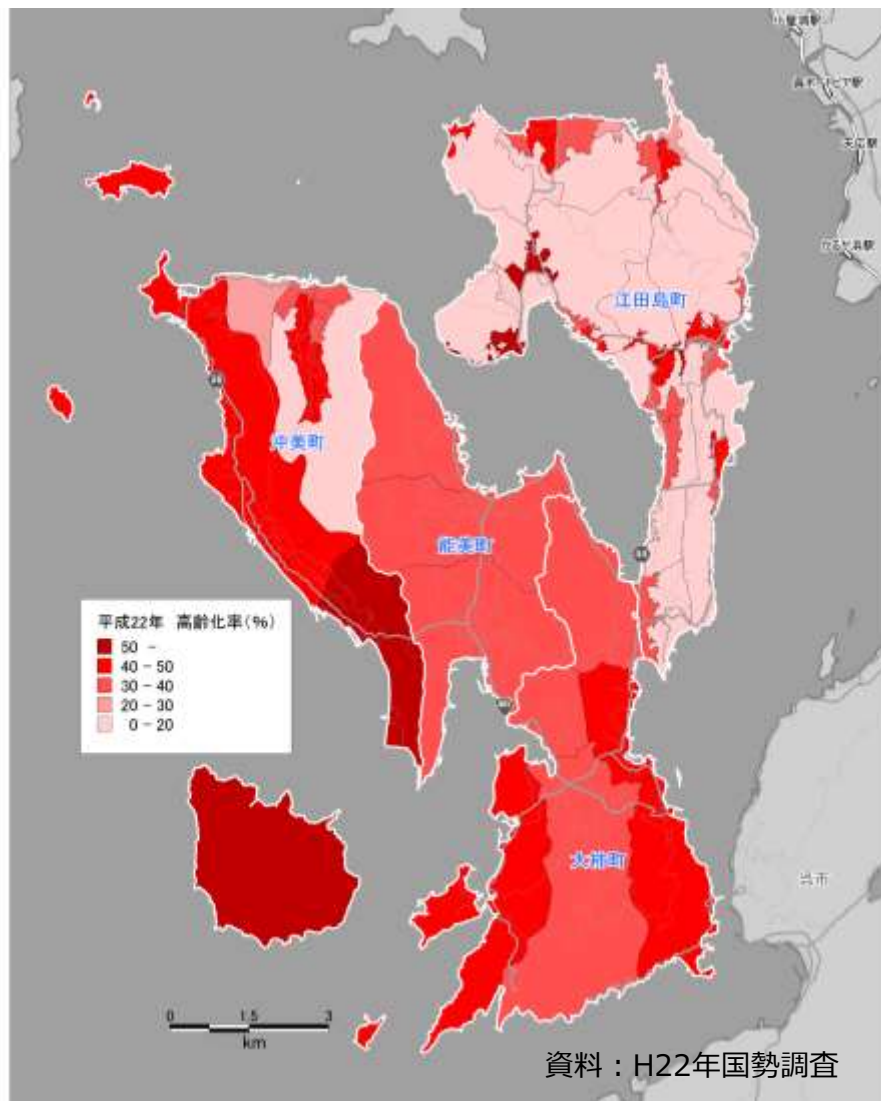
▲江田島市内における人口の空間分布

- 概ね幹線道路沿線に人口が分布
- 一部、斜面に住宅地が広がり、道路環境も悪い地区あり（是長・岡大王・秋月など）



高齢化の状況

4



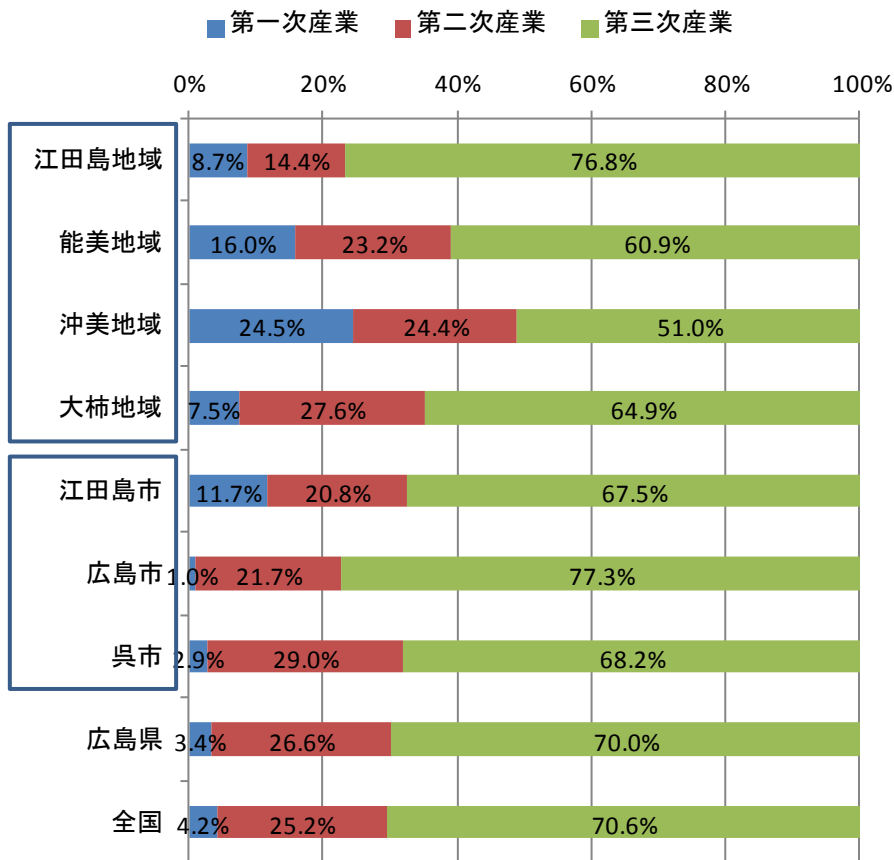
- 沖美地域など、周辺部は特に高齢化率が高い

▲ 江田島市内における地区別の高齢化率

産業

5

第一次産業・・・農業、林業、漁業
第二次産業・・・製造業、建設業、電気・ガス業等
第三次産業・・・小売業やサービス業等



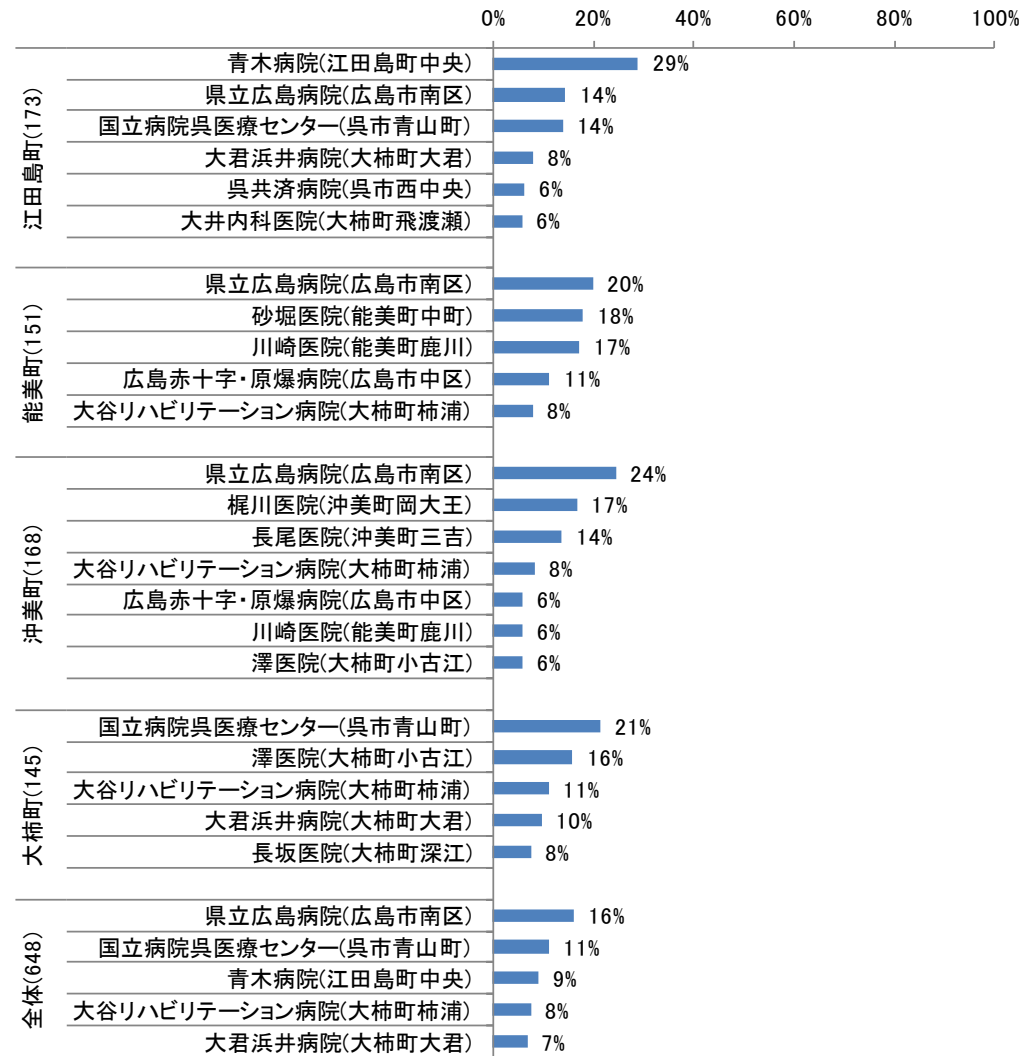
資料：H22年国勢調査

▲産業分類別の15歳以上就業者数割合

- 能美地域や沖美地域では、比較的第一次産業（農業、漁業等）に就業する人が多い
- 市全体でも、近隣自治体に比べて第一次産業に就業する人の割合が高い

市民の移動の状況

6



▲主に通院している医療機関 (<地域別上位5機関を掲載>)

※H24年度実施の住民アンケート調査結果より

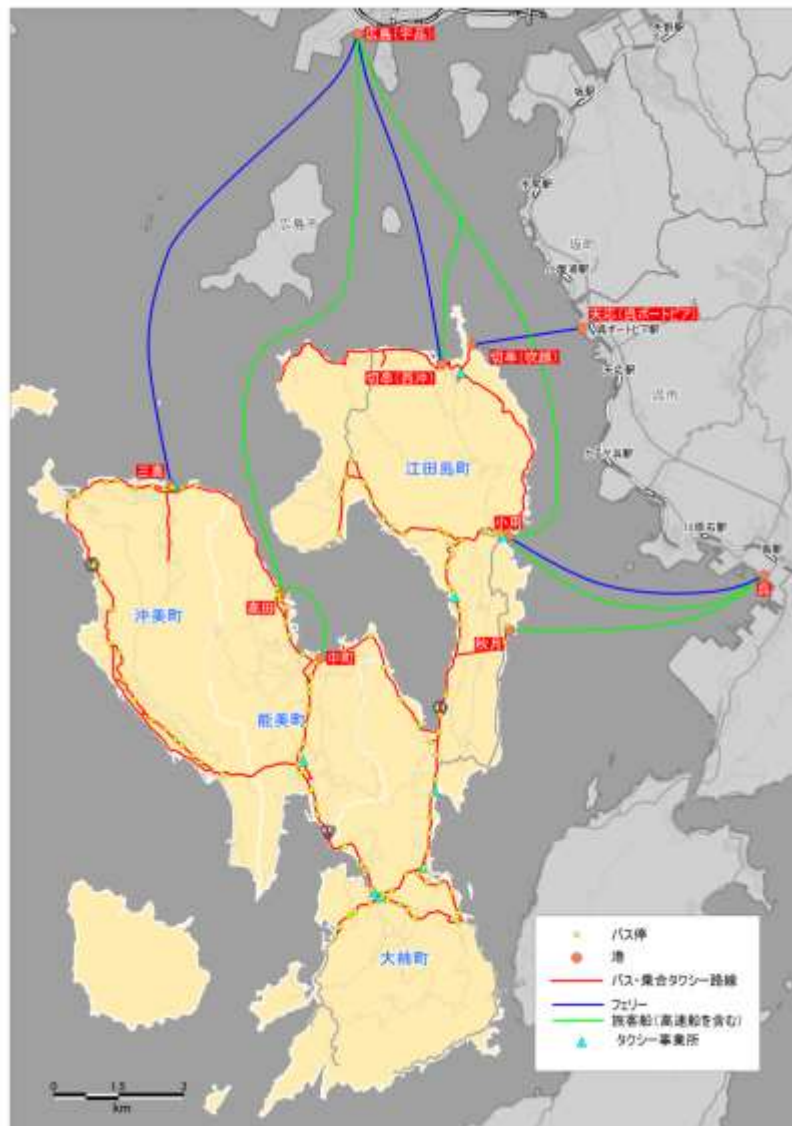
- 通院や買い物で市外に出る人も多い
- 広島市や呉市への通勤・通学が多い



▲江田島在住者(15歳以上)の従業地・通学地

公共交通の現状

7



- 広島方面、呉方面に向けて航路が運航
- 市内には路線バスと予約型乗合タクシーが運行
- タクシーは6社9営業所が存在

航路のサービス状況



①	切串西沖～宇品(フ)
旅客運賃	460円
運航時間	6:40～22:00
便数	22往復
運航主体	上村汽船

②	切串吹越～天応(フ)
旅客運賃	290円
運航時間	5:45～21:19
便数	20往復
運航主体	さくら海運

③	小用・切串西沖～宇品(高)
旅客運賃	1060円(切串西沖930円)
運航時間	6:16～22:53
便数	20往復
運航主体	瀬戸内シーライン

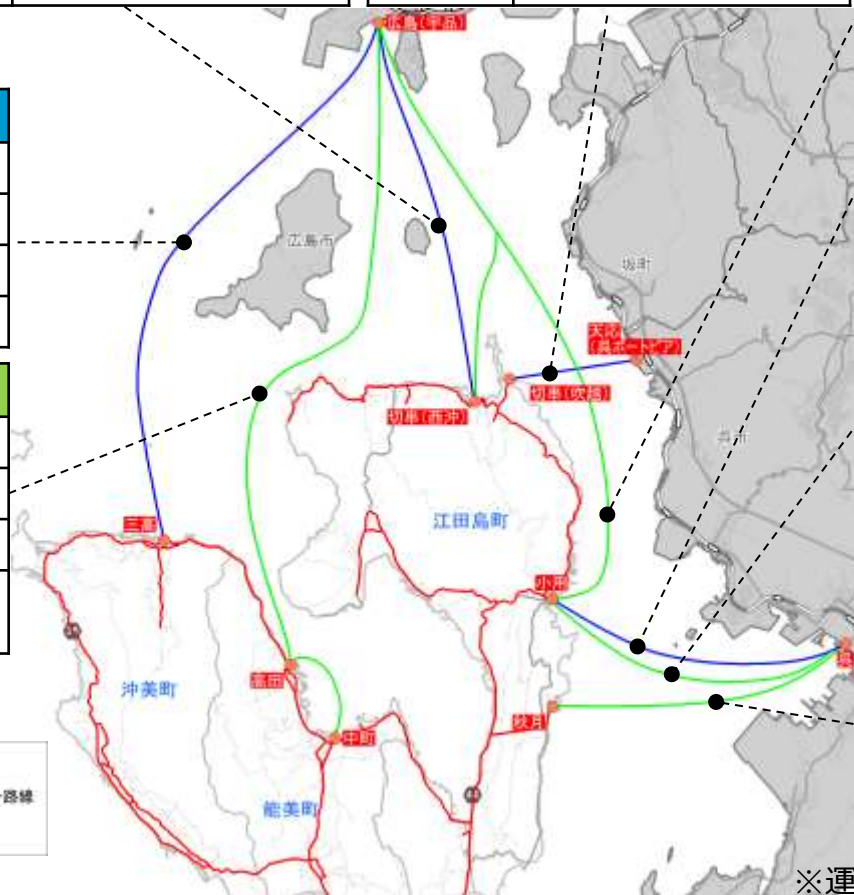
⑧	三高・大須～宇品(フ)
旅客運賃	680円
運航時間	6:08～21:37
便数	16往復
運航主体	江田島汽船

⑦	中町・高田～宇品(高)
旅客運賃	960円
運航時間	6:00～23:25
便数	23往復
運航主体	江田島市(H27.10月～瀬戸内シーライン)

④	小用～呉中央(フ)
旅客運賃	390円
運航時間	6:27～19:20
便数	13往復
運航主体	瀬戸内シーライン

⑤	小用～呉中央(高)
旅客運賃	550円
運航時間	5:55～22:52
便数	13往復
運航主体	瀬戸内シーライン

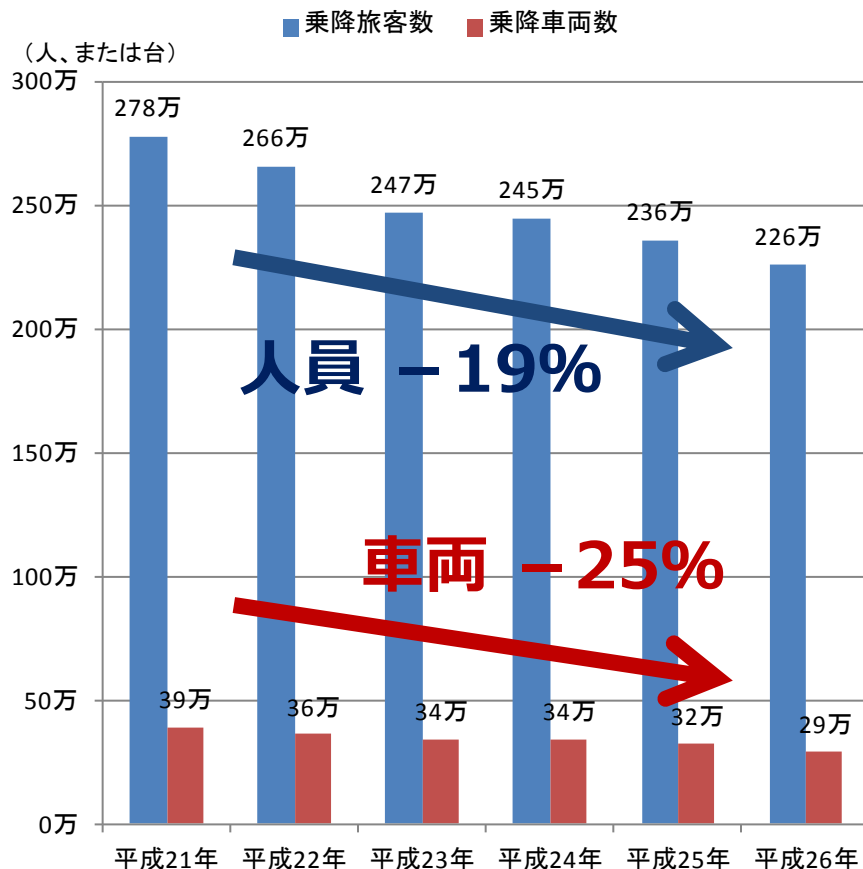
⑥	秋月～呉中央(旅)
旅客運賃	520円
運航時間	6:40～19:43
便数	7往復
運航主体	バンカーサプライ



※運航時間、便数は平日のものを表示

航路の利用状況の推移

9



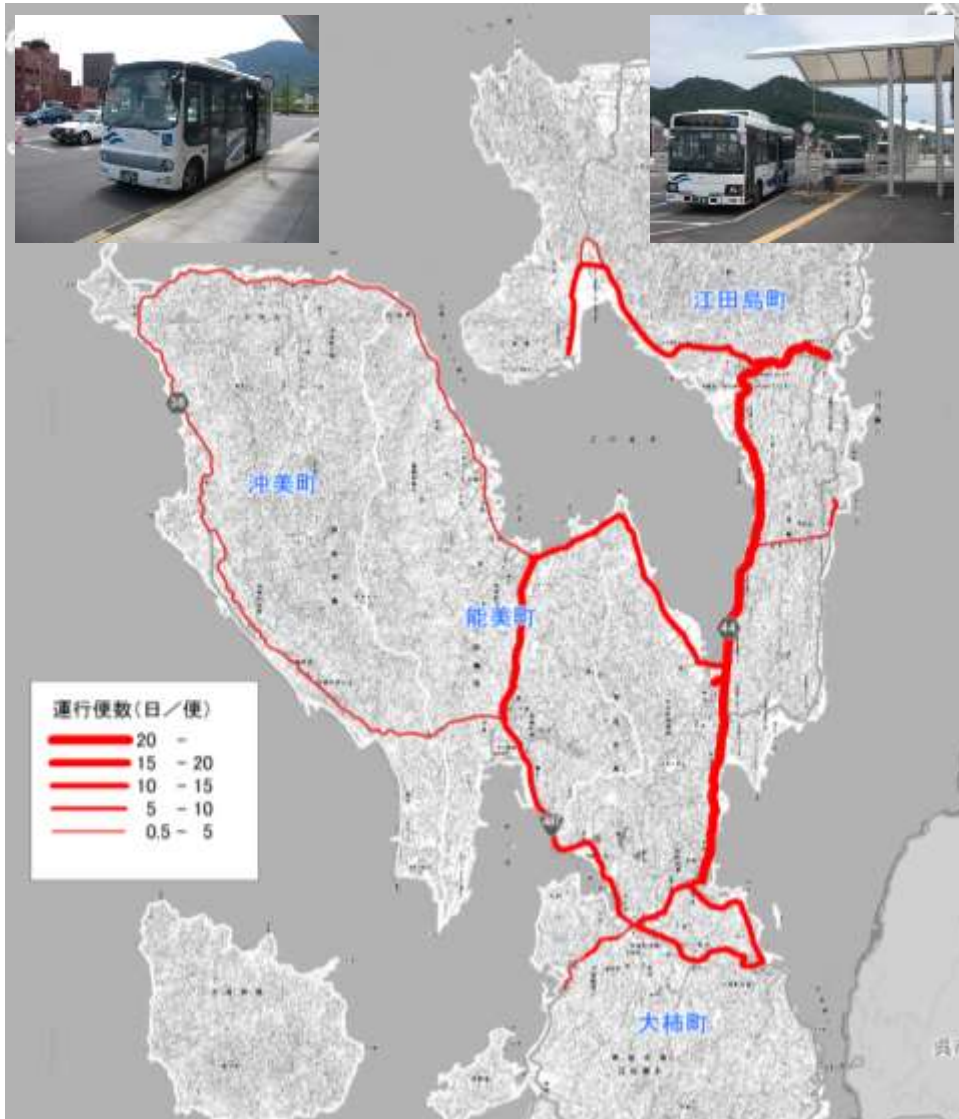
資料：港湾統計

▲江田島市に関する航路の乗降旅客数と乗降車両数の推移

- 航路の乗降客数は5年間で**19%減少**
- フェリーの車両航送も5年間で**25%減少**
- H25年3月に第二音戸大橋が開通し、車両航送が一段と減少

路線バスの運行便数（平日）

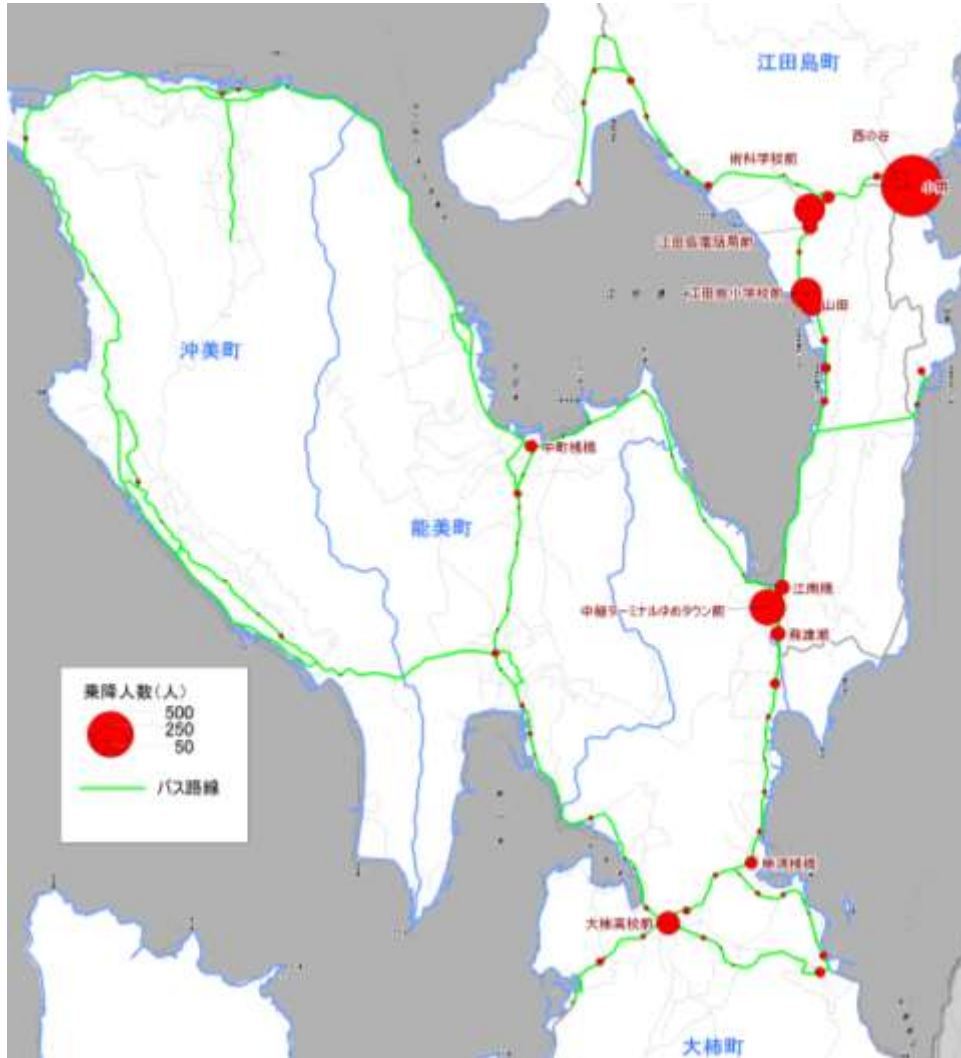
10



- 小用～飛渡瀬～大柿の間が幹線
- 沖美方面は便数が少ない（朝夕のみ）
- 一方、昼間は予約型乗合タクシー「おれんじ号」が運行



路線バスの利用状況



▲江田島バス平日1日当りのバス停別乗降者数 (H26年度)

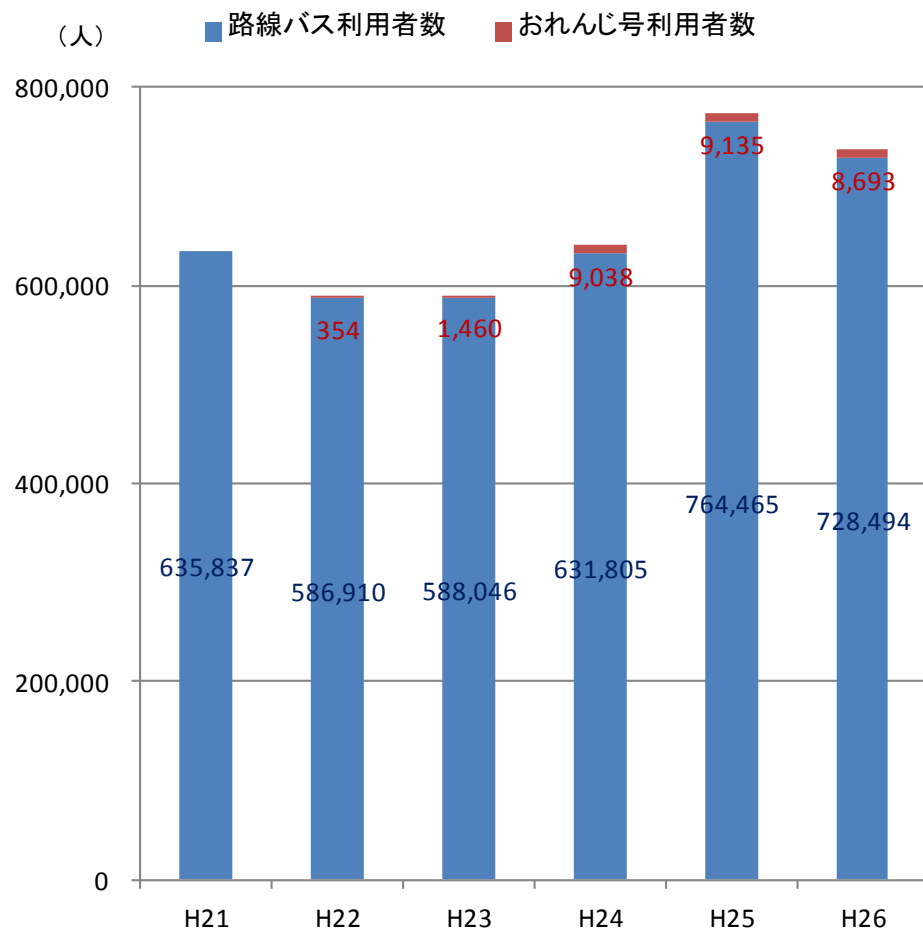
- 利用の大半は小用～飛渡瀬～大柿高校間
- ゆめタウンでの乗降も多い

バス停	乗降者数
小用	754
中継ターミナルゆめタウン前	281
江田島小学校前	226
術科学学校前	218
山田	137
大柿高校前	130
西の谷	87
飛渡瀬	71
江南橋	67
江田島電話局前	62

▲江田島バス平日1日当りのバス停別乗降者数上位10 (H26年度)

路線バスの利用者数の推移

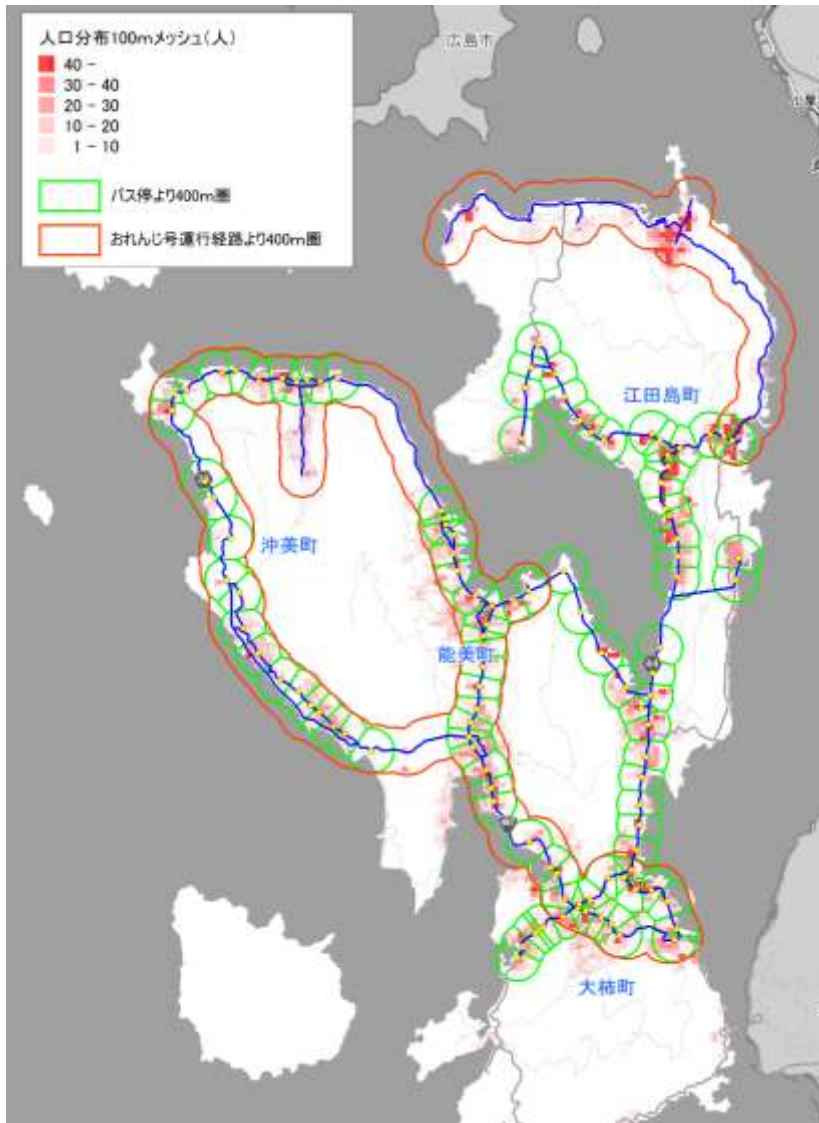
12



- 路線バスの利用者数は小中学校のスクールバスの路線化等で近年増加（5年間で+14.6%）
- おれんじ号の利用者数は近年横ばい～微減

不便地域の状況

13



- 水平距離で考えた場合、バス停やおれんじ号の運行経路から400m圏に多くの人口が分布
- 400m圏外に分布する人口はわずか

まちづくりの方向性 (市総合計画)

『市民満足度の高いまちづくり』の数値目標
市民満足度ポイント 70点以上(平成 36 年度)
 ○(計画前半)市民満足度の低い分野の解消に注力 ⇒60点
 ○(計画後半)市民重要度の高い分野の向上へシフト⇒70点
 (平成 25 年度:54.4 点)

基本構想
 <10年後の目指す姿>
協働と交流で創りだす『恵み多き島』えたじま
 平成 36 年度における目標人口
23,000人
 (平成 26 年 11 月現在:約 25,650 人)

『未来を切り開くまちづくり』の数値目標
 平成 36 年度 交流人口の倍増(総観光客数 100 万人)
 (平成 24 年度:54.3 万人)

基本計画

市民が必要とし、求めているサービスを提供する

- 教育・文化** 将来像:子どもたちが夢や目標を持って学び、育ち、市民一人ひとりが、生涯を通じて、学び、活動し、生きがいを感じる『人が育ち、輝くまち』が定着しています
 第1節 学校教育の充実 1 学校教育の内容(小中学校) 2 学校と地域・家庭との信頼関係 3 学校施設の整備
 第2節 生涯学習の充実 1 生涯学習活動の支援 2 社会教育施設の整備 3 伝統文化・文化財の保護
 第3節 スポーツの振興 1 スポーツ・レクリエーションの普及・振興 2 社会体育施設の整備
- 産業・観光** 将来像:地域経済と雇用を支え、UJターン等の定住を促進する『元気な産業・観光を生み出すまち』が育っています
 第1節 農林業の振興 1 農林業の生産基盤の整備 2 農林業の後継者・担い手の育成 3 農林産物の高付加価値化・ブランド化
 第2節 水産業の振興 1 水産業の生産基盤の整備 2 水産業の後継者・担い手の育成 3 水産物の高付加価値化・ブランド化
 第3節 商工業の振興 1 企業誘致の推進 2 創業・起業への支援 3 地場産業への支援 4 労働者福祉の向上
 第4節 観光の振興 1 観光資源の発掘・魅力づくり 2 宿泊・観光施設の整備
- 福祉・保健** 将来像:乳幼児期から高齢期まで、すべての市民が家庭や地域で、元気で生き生きと日常生活が送れる『健康で安心して暮らせるまち』が築かれています
 第1節 子育て環境の充実 1 子育て支援サービスの充実 2 保育園・児童館等の整備
 第2節 保健・医療の充実 1 保健・健康づくりサービスの充実 2 医療機関の充実
 第3節 高齢者福祉・介護の充実 1 高齢者福祉サービスの充実 2 介護サービスの充実 3 高齢者福祉・介護施設の整備
 第4節 障害者福祉の充実 1 障害者福祉サービスの充実 2 障害者福祉施設の整備
 第5節 社会福祉の充実 1 セーフティネットの確保 2 地域福祉・ボランティアの推進
- 生活・環境** 将来像:美しい自然と環境に育まれながら、市民一人ひとりが互いに尊重しあい、心豊かに暮らせる『生活と環境を守り、高めるまち』が築かれています
 第1節 人権尊重と男女共同参画の推進 1 人権尊重の社会づくり 2 男女共同参画の推進
 第2節 公衆衛生の確保 1 公衆衛生の確保・環境美化 2 ゴミ対策・リサイクルの推進
 第3節 自然環境の保全 1 地球温暖化対策 2 自然環境の保全
- 安全・安心** 将来像:日頃から災害や事故などの防止と、万一の災害等が発生した場合の備えを整え『災害に強く、安心して暮らせるまち』が築かれています
 第1節 大規模災害時の危機管理 1 大規模災害等に備えた危機管理体制の構築 2 地域防災活動への支援 3 避難所等の整備
 第2節 総合的な消防体制の充実・強化 1 消防体制の充実・強化 2 救急体制の充実・強化 3 火災予防の推進
 第3節 暮らしの安全の確保 1 防犯・交通安全の確保 2 消費者行政の充実
- 基盤** 将来像:市民生活や都市活動を支える道路・交通、上下水道、住宅、公園など『しっかりとした基盤を備えたまち』が築かれています
 第1節 都市基盤の整備 1 道路の整備 2 港湾・漁港の整備 3 防災対策(河川・急傾斜地) 4 上下水道の整備 5 下水道の整備
 第2節 生活基盤の整備 1 住宅・住環境の整備 2 公園緑地の整備 3 計画的な土地利用 4 公共施設の再編・整備 5 情報通信基盤の整備
 第3節 生活交通の確保 1 海上交通の確保 2 バス等の確保
- 地域** 将来像:市民相互や都市部の人との様々な交流やふれあい生まれ、UJターンによる定住も多くなり、『地域が元気で、にぎやかなまち』が築かれています
 第1節 都市市との交流・定住の促進 1 都市市との交流の促進 2 定住促進策の推進
 第2節 コミュニティの振興 1 自治会等の地域活動への支援 2 国際化・多文化共生の推進 3 地域活動拠点の整備

市民満足度の高いまちづくり

「部門・分野別に施策・事業を実施」

基本計画

新たな人の流れや経済活動を創り出す

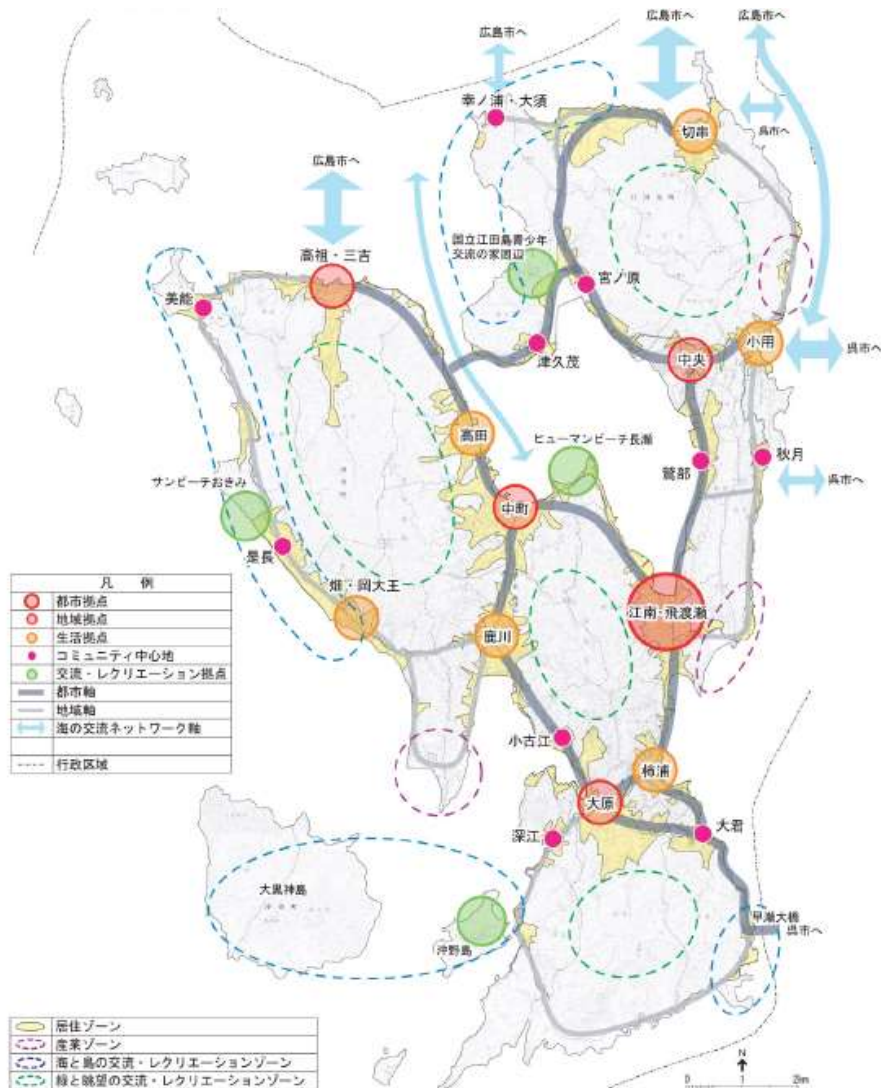
- え **「絵になる島」づくりプロジェクト**
 <プロジェクトの柱(取組の方向)…主な取組の一部紹介>
 1 海と川の美しい環境づくり
 …漁場環境の改善、公共下水道の整備など
 2 島の緑の再生・活用
 …森林の保全と防災対策、オリブ栽培等の促進、など
 3 公園緑地の魅力づくりと有効活用
 …市民参加型公園管理の推進、公園緑地の整備・更新など
 4 環境美化・景観づくりに関わる活動の促進
 …まちづくり団体の支援、自主的な清掃・除草活動への支援など
- た **「楽しめる島」づくりプロジェクト**
 <プロジェクトの柱(取組の方向)…主な取組の一部紹介>
 1 多彩な体験型観光・イベントの展開
 …マラソン大会の開催、観光体験メニューの開発推進など
 2 アクティビティの島づくり
 …サイクルステーションの整備、観光案内板の整備
 カヌー・登山・サイクリングなどアウトドアスポーツの振興など
- じ **「自慢できる島」づくりプロジェクト**
 <プロジェクトの柱(取組の方向)…主な取組の一部紹介>
 1 特色ある教育・スポーツによる人づくり
 …豊海を教育資源とした体験活動の推進、市民スポーツの振興、公民館学習支援や交流機会の提供など
 2 えたじまブランドづくり
 …6次産業化の推進、特産品づくりの推進、起業や新事業種入の促進など
- ま **「また来たい島」づくりプロジェクト**
 <プロジェクトの柱(取組の方向)…主な取組の一部紹介>
 1 おもてなしの島づくり
 …観光ボランティアの養成、広域誘客の促進、主要観光施設への情報インフラの整備、情報発信力の強化など
 2 交通と宿泊施設の確保
 …生活基盤の確保、方針に基づく宿泊観光関連施設の整備など
 3 交流・定住の条件整備
 …えたじま暮らし体験の促進、移住者の住居確保支援など

未来を切り開くまちづくり

「横断的に施策・事業を実施」

都市構造の方向性

15



- 江南・飛渡瀬が都市拠点
- 地域拠点として中央、中町、大原、高祖・三吉
- H28年度に市役所の多くの機能が大柿庁舎に移転予定

▲都市計画マスタープランに示された将来都市構造図

現時点での問題点（海上交通）

16

- 利用（人員・車両）の減少等による各航路の経営環境の悪化
- サービス切り下げに伴う市民生活への影響（特に通勤、通学などに支障が生じる場合は、転居で人口減に拍車も）
- 通学者が複数いる場合など、高額になりがちな運賃負担

現時点での問題点（陸上交通）

17

- 幹線・支線の役割分担が不明確
- わかりにくい運行内容（常連だけでなく、初めての人も乗れるサービスに）
- 急傾斜地の住宅地における移動困難者（高齢者等）の存在
- 待合環境が劣悪なバス停の存在

現時点での問題点（その他）

- 航路と路線バス・おれんじ号など、モード間の連携不足
- 情報提供の不足（いつ到着するかわからない、どこを走るのかわからない等）
- 市民の「公共交通を守る意識の醸成」に関する取組の不足

江田島市地域公共交通総合連携計画（22～26年度）に掲げる事業の客観的評価について【1/4】

19

施策1	【海上交通】西能美航路の合理化・効率化
事業の概要	中町・高田～宇品航路を高速船に特化し，三高・大須～宇品航路へ車両輸送需要を集約することで，効率化と収益改善を図る
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・計画していた事業は概ね予定どおり実施・H27.10より市営船(中町・高田～宇品航路)を公設民営化・三高～宇品航路は，中町・高田～宇品航路のフェリーを廃止して，車両輸送需要を集約したものの，その後の警固屋音戸バイパスの開通等の影響により，依然として厳しい経営状況にあると思われる
施策2	【陸上交通】バス路線の系統整理とターミナルの機能強化
事業の概要	移動ニーズに応じて路線バスの系統を整理するとともに中心部ターミナルを機能強化(車両待機場所の整備)し，利便性向上による利用者数の増加と運行効率化を図る
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・ゆめタウン江田島の敷地内にターミナル整備を行ったものの，路線体系やダイヤの面で，それを十分活かし切れているとは言えず，結節点としての機能改善が必要である・系統整理の方向性を市で検討しているものの，ダイヤ編成等，再編の実行にあたっての作業が現場も含め進んでいない(人的リソース不足に起因する問題と思われる)・「乗って残そう公共交通」の意識醸成，住民のものである意識改革が必要である。

江田島市地域公共交通総合連携計画（22～26年度）に掲げる事業の客観的評価について【2/4】

20

施策3	【陸上交通】 交通空白不便地域への移動手段確保
事業の概要	市内に存在する交通空白不便地域において、様々な選択肢の中から地域に合った移動手段を導入し、地域住民の活動機会の創出を図る
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・計画していた事業は概ね予定どおり実施・空白地を埋めるという意味では役割を果たしているが、現在の需要に照らして本当に効率的な運行となっているか、住民ニーズ合った仕組みかの再検証が必要である・予約や利用に関する実績データの蓄積がなされておらず、検証に必要なデータが不足している・沖美地区においては、狹隘道路区間も多く、予約型乗合タクシーでも(状況によっては一般乗用タクシーでも)対応できていない移動需要が存在する可能性がある
施策4	【陸上交通】 棧橋や主要バス停における施設整備
事業の概要	公共交通の基盤である案内サインや上屋、ベンチ等の不備を改善することで、利用者の利便性を向上する
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・計画していた事業が実施されていない・道路用地内での施設整備には限界があるため、民間用地の借用等での対応を検討する必要がある(新型バスロケシステム導入、空き家の用地借用、民間と協働したバスの駅、シニアカーのパークアンドライド施設整備等)

江田島市地域公共交通総合連携計画（22～26年度）に掲げる事業の客観的評価について【3/4】

21

施策5	【共通】 ICカードの導入
事業の概要	ICカードを導入し、代替・補完関係にある航路の利用拡大や、乗り継ぎ利便性向上を図るとともに、これを活用した地域活性化策を検討する
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・導入に向けての調査・検討は進められたものの、費用的な制約から導入には至っていない・PASPYでは費用負担が大きくなりがちであるが、他の電子マネーであれば安価にシステムを導入できる可能性もあり、多面的な検討・実施が必要
施策6	【共通】 インターネット等による情報提供の充実
事業の概要	時刻表や乗り継ぎ情報、航路の欠航情報など、利用者にとって必要な公共交通の情報にホームページ上で整理し、利便性の向上を図る
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・計画していた事業は概ね予定どおり実施・路線検索システムやメール配信システムについて、十分利用されているか等の検証が十分にされていない

江田島市地域公共交通総合連携計画（22～26年度）に掲げる事業の客観的評価について【4/4】

22

施策7	【観光振興等】 市内外の観光施設とタイアップした観光ルートの形成
事業の概要	市内外の観光施設を有機的に結び付けるために、割引チケットやスタンプラリーを企画することで、交流人口を拡大し、公共交通利用者の増加、地域の活性化を図る
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・計画していた事業は概ね予定どおり実施・観光に関して、対象顧客のセグメントが絞られておらず、網羅的すぎる。また、目的が絞り切れていないため、中途半端な事業になっている
施策8	【観光振興等】 サイクル&シップライド型エコツーリングの推進
事業の概要	自転車ツーリングを推進するためサイクリングマップと乗船券、市内観光施設等の割引チケットをセット販売し、公共交通利用者の増加、地域の活性化を図る
客観的評価	<ul style="list-style-type: none">・計画していた事業は概ね予定どおり実施・観光に関するワンストップサービスの検討が必要（Onomichi U2等を参考に）・サイクリングマップの作成だけでなく、サイクリストがまた来たいと思うおもてなしの仕組みづくりが必要である・レンタサイクルも、本格的ロードバイクを導入するなど、顧客ニーズに対応していくことも必要である